

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	医療総合学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	演 習
科 目 名	介助技術演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	406・日常生活動作訓練室
担 当 教 員	荒木将平・高田秀志	実務経験と その関連資格	理学療法士として病院で勤務経験あり			
《授業科目における学習内容》						
総合病院、クリニック、高齢者施設など、高齢者に関わる現場において必要となる介助技術の基本を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
授業の取り組み姿勢(60%)、技術修得達成度(30%)※、出席状況(10%) ※授業内に達成してもらいます						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料						
《授業外における学習方法》						
高齢者の身体(仕組み、疾患 等)について復習をしておく。						
《履修に当たっての留意点》						
相手側の立場を理解し、配慮ある心を養うことも重要と考えている						
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	車いすの基本構造、操作方法を理解できる		配布資料	特になし
		各コマに おける 授業予定	車いすの基本構造、操作方法を学ぶ			
第 2 回	演 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	安全に車いすを操作できる		配布資料	車いすの基本操作につ いて復習しておく
		各コマに おける 授業予定	平地、坂道、エレベーター乗り降りなど安全な車いす操作につ いて実技を行う			
第 3 回	演 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	安全に車いすを操作できる		配布資料	車いすの基本操作につ いて復習しておく
		各コマに おける 授業予定	校舎近隣(歩道、駅周辺等)を実際に移動する			
第 4 回	演 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	安全に車いすを操作できる		配布資料	車いすの基本操作につ いて復習しておく
		各コマに おける 授業予定	校舎近隣(歩道、駅周辺等)を実際に移動する			
第 5 回	演 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	基本的起居動作の動きを理解する		配布資料	特になし
		各コマに おける 授業予定	基本的起居動作の動きについて講義、実技を行う			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	起居動作の介助方法を修得する	配布資料	基本的動作について復習しておく
		各コマにおける授業予定	起居動作介助について実技を行う		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	ベッド、車いす間の移乗技術を修得する	配布資料	基本的動作について復習しておく
		各コマにおける授業予定	ベッド、車いす間の移乗について実技を行う		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ベッド、車いす間の移乗技術を修得する	配布資料	基本的動作について復習しておく
		各コマにおける授業予定	ベッド、車いす間の移乗について実技を行う		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標		配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定			
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標		配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定			
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標		配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定			
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標		配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定			
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標		配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定			
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標		配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定			
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標		配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定			